



No. 120 2021. 8. 16

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU
明石市教育委員会事務局学校教育課



コミスク TwitterQR

これから求められる「アセスメント能力」と「ファシリテーション能力」

先日開催された中央教育審議会特別部会と教員養成部会の合同会議の中で学校管理職の在り方、教師に求められる資質能力再整理、現職教員に対する研修の在り方等について検討が行われたようです。その中で学校管理職に求められる能力を、“アセスメント能力”と“ファシリテーション能力”の2つに分類されています。

【アセスメント能力】

- 学校経営方針の策定に向けて、学校教育活動に関わるさまざまなデータや学校が置かれている内外環境に関する情報について、収集・整理・分析して教職員間や学校運営協議会で共有
- 適切な状況・課題把握を踏まえ、新たに取り入れるべき知識や技能に関する教職員間での認識の共有

【ファシリテーション能力】

- 多様な背景、経験、専門性等を有する教職員が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保
 - 学校運営協議会などの学校・家庭・地域等の関係者間の協議における学校運営改善に向けた相互作用の促進
- (参照：教育新聞)

この審議の中では、保護者・地域の方が学校運営に参画し、学校運営協議会の中で学校・家庭・地域等の関係者間での協議で学校運営改善等が進められていくことなどがごく当然のように記されています。それだけに学校を開き、“社会に開かれた教育課程”を実現させる管理職の姿を意識されたものなんだなと感じました。

そんな時、ある地域の方よりこんなご意見をいただきました。

「コミュニティ・スクールなど地域とつながった取組が進む学校と、そうでない学校との差が非常に開いてきている。地域も学校が何をしているかわからないところもあるし、逆に学校も地域が何をしているのかわからないところがある。学校も地域も、双方がお互いのことをもっと知ることが必要」

この意見を聞き、まさにこうしたことが管理職の“アセスメント能力”と“ファシリテーション能力”が求められるところにつながるんだろうなと思いました。また、こうした“アセスメント能力”や“ファシリテーション能力”は管理職にだけ求められる能力ではなく、保護者・地域の学校運営への参画が進んでいくこれからの時代にはだれもが必要とされる資質能力なんだろうなと感じました。

支援者から協働探究者へ

先日和坂小学校で3年生の環境体験学習で行っている「わさかっこ桜守プロジェクト2021」にかかわってくださっているまちづくり協議会の皆さんを含め、地域のみなさん向けの活動のねらいや活動経過等を説明する説明会が開かれました。この説明会の情報を聞き、この説明会には次のような意味があるのではと考えます。

○支援者から、学びの当事者（協働探究者）へ

・活動の趣旨等の説明を受けることで、活動の持つ面白さや価値に触れることにより子どもたちを支援するだけでなく、桜守の楽しさと意義が学びの当事者としてのモチベーションへ⇒桜守が地域の学びとしての生涯学習へ

○持続可能な学びに

・地域の方が当事者意識を持った協働探究者として活動に参画されることにより、学校内の学びから、管理職・教職員が異動しても地域に根ざした学びとして持続・発展していく学びへ⇒子どもも大人も学校の勉強から探究としての学びへ

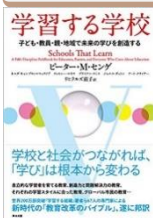
また、この説明会を定期的な報告会への考えもあるようです。こうした“学びの見える化”を図っていくことが、学校を「持続可能な学びの組織」として創り上げていく学びのイノベーションが起こり始めているのではと思います。これから“見える化”がある意味キーワードになっていくのではと感じています。

The collage contains several key documents:

- 2021年度 年間活動スケジュール**: A calendar showing monthly activities from January to December.
- Stage1: 明石公園での桜守**: A circular diagram with four quadrants (1-4) detailing activities like 'Meetings' and 'Planting'.
- Stage2: 和坂小学校での桜守**: A circular diagram with four quadrants (1-4) detailing activities like 'Meetings' and 'Planting'.
- Stage3: 校区での桜守**: A circular diagram with four quadrants (1-4) detailing activities like 'Meetings' and 'Planting'.
- わさかっこ桜守プロジェクト**: A calendar table listing dates, activities, and participants.
- 和坂小学校『サクラ並木復活』**: A site plan diagram of the school grounds.
- 「根を養えば 樹は自ら育つ」**: An article by 東井 義雄 explaining the importance of root care for cherry trees.
- サクラに思いを寄せる 三層の視点**: An article discussing three perspectives on cherry trees: 'Seeing', 'Feeling', and 'Caring'.

改めて説明資料を見ると、「こんなことしています」といった感じではなく、活動の意義や価値、それと桜を再生していくための科学的な視点や夢がつまっています。直接活動に参加しなくても、和坂小の桜が気になり、元気になる過程を楽しみにしてくれる人が増えるのではと感じました。そうしたことが人と人とのつながりを広げていくんだらうなど。

学校と社会がつながれば、「学び」は根本から変わる



最近「学習する学校」という分厚い本を手に入れ、読み始めています。“学校と社会がつながれば、「学び」は根本から変わる”はこの本の帯に書かれているメッセージです。まだ、読み始めたばかりですが、未来の学びを考える上でのヒントがいっぱいあるように思っています。“学び”の転換はグローバル的な流れであり、そうした視点を与えてくれる本ではと思っています。

私たち産業時代の教育システムで育ったものすべてに、自らが経験し育てられてきた学校を振り返り、未来に向けて「学び直せ」と迫ってくる。学校は「教える」組織から「学ぶ」組織に変わらなければならない。そうしなければ、学校は子どもたちに過去のメンタル・モデルを継承するだけで、やがてまだ見ぬ未来の課題に立ち向かって生きる力を身につけさせることはできない。

「学習する学校」訳者リヒテルズ直子まえがきより

(文責：北本)